



## ノグチゲラってどんな鳥？

ノグチゲラは沖縄県北部のやんばると呼ばれている地域だけに生息するキツツキです。

1887年に新種として発表され、世界中の人に知られるようになりました。名前はノグチゲラの発見に関わったノグチさんに由来し、学名の *Sapheopipo noguchii* には「ノグチさんの特別なキツツキ」という意味があります。

個体数は以前は100羽程度とされていましたが、1990年代の詳細な調査結果では、400羽程度と推定されました。



常緑照葉樹の森に住んでいる



オスの頭頂部は赤い

木の幹に止まるため、指は前に2本、後ろに2本ついている



羽には4列の白斑がある



体を支えるための丈夫な尾

♀ WSm0106



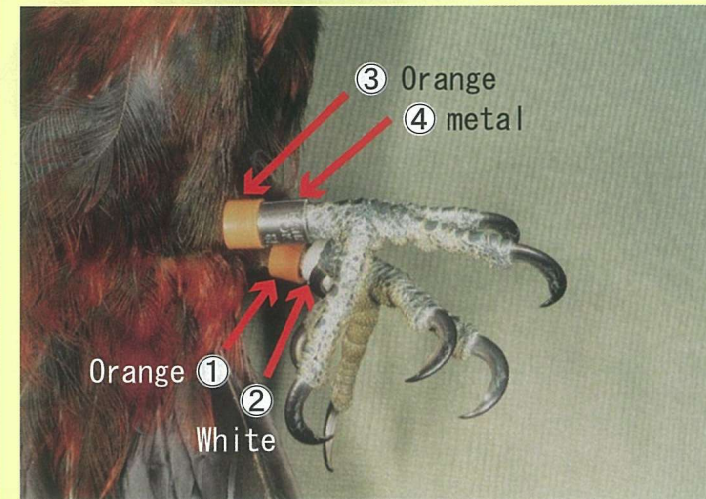
## ノグチゲラの調査

ノグチゲラの生態を調べるため、環境省では「ノグチゲラ保護増殖事業計画」に基づき、1999年3月から足環を装着して個体を識別し、それらの追跡調査などを行っています。

この調査を行うことで、寿命や繁殖行動、社会構造などの基礎的な情報が集まり、ノグチゲラの保全を考える時の資料となります。

### ◆足環の装着・計測◆

捕獲後、足環を装着します。この足環の色の組み合わせにより、個体識別ができるようになります。また、個体の情報を知るために足環装着後に計測を行います。



足環にはプラスチックのカラーリングと金属（メタル）リングを使います。足環は①左足上、②左足下、③右足上、④右足下の順に英語の頭文字で表します。左写真の個体はOWOmと表します。

### ◆追跡調査◆

足環をつけた個体を追跡し、行動や繁殖状況を観察します。山の中をくまなく歩いてノグチゲラを見つけ、確認した個体の足環の色、見つけた場所、時間、行動の様子などを記録します。鳴き声やドラミングなど、音をたよりにノグチゲラを見つけることもあります。

#### ※ドラミング

キツツキの仲間が縄張りを主張したり、つがい相手を呼び寄せるために木をたたいて音を出すこと。



左の写真は1999年に初めて捕獲されたオス個体で、この時に装着された橙色の足環から「ダイ」と呼んでいます。

ダイは追跡調査から、9年連続で繁殖していることが確認できました。これから、ダイやその他の個体を観察してわかってきたことを紹介します。